

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	札幌市かしわ学園		令和6年度は、訪問事業の実績がなかったため、評価対象者がいなかった。	
○保護者評価実施期間	年 月 日		本事業については、職員間で自己評価を実施し総括を行った。	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	令和6年12月3日		～ 令和6年12月25日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数)	19名
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日	
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	0回	(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月6日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援を提供する場合は、保育所等訪問支援計画を作成において子どもの支援に関わる職員で、子どもの最善の利益を考慮した検討を行うことができる。	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問を行っている職員以外にも他職種(言語聴覚士、看護師、栄養士等)が参加し作成時に意見交換を行うことができる。	職員間で共通理解を図り、本事業について、組織として取り組めるように会議等の充実を図る。
2	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行うという点では、事業者が札幌市ということもあり、職員が人事異動を通して職歴が豊富であるため、連携を図るためのノウハウやスキルを要している。	医療との連携では、子ども発達支援総合センター(ちくたく)に所属している施設となっており連携は、図りやすい。	地域支援の職員を配置し、地域の関係機関との連携の強化を図る。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業実績がなかった。	対象者や関係団体に当事業について、周知されていない。	本事業について、地域の関係機関や児童発達支援事業利用者へ機会を捉えて説明をし、事業実施につなげることが必要と考える。
2	事業実績がないことで、職場全体での事業理解がやや乏しい。	利用者からの相談などがあった時に対応する姿勢でいたため、職場全体で本事業について、取組む姿勢がやや消極的だったと考える。	児童発達支援センターとして、職員全体で共通理解を図るための会議や研修を実施することが必要だと考える。
3			